

全員が1人ずつ

発表するスタイルに変更した。テーマ設定も学校側が用意する形から、生徒自身が決める方式に変えた。生徒たちは観光、保育、美術など九つのテーマごとにグループをつくり、地元の商業施設や保育園、農園などへ出向いて学習した。

ポスターセッションでは、1人当たりの持ち時間は7分。生徒たちは体育館の四方の壁を背に立って発表し、聴衆は興味のある分野に耳を傾けた。観光グループの伊藤翔真さん(15)は、紅葉で有名な出早公園や市内のブルーベリー農園を訪ねたとし、「岡谷に住んでいる私たちが、岡谷の観光地についてあまり知らないことが課題だと思う」と語りかけた。

井出綾音さん(15)は美術グループで、ペットボトルキャップを活用してしおりを作ったり、岡谷蚕糸博物館を訪ねたりしたと発表。「岡谷の魅力を改めて感じたし、自分が

富士見町 AIデマンド交通検討 「のらぎあ」10月から実証運行へ



富士見町は19日に町内で開いた町地域公共交通会議で、茅野市や原村と同じ人工知能(AI)を活用したオンデマンド交通「のらぎあ」の実証運行を10月に始める意向を明らかにした。町内で町が運行しているデマンド交通「すずらん号」の代わりとして運行する計画で、2027年4月からの本格運行を目指す。

町は町商工会に委託して04年からすずらん号を運行している。利用者は減少傾向で、町産業課によると25年度は1万5千人を下回る見込み。町は町内の公共交通の方向性について、自家用車に頼らなくても自由に移動でき、多くの人々が利用しやすい交通を目指しており、行き先の自由度の高さや支払い、予約の利便性が高いのらぎあを検討することにした。

会議で町産業課はのらぎあについて、乗車時間の自由度が高く、アプリで予約ができるといった利便性を紹介。若年層の利用も多く、茅野市や原村と共同でシステムを利用

地域のために何ができるかを考えたいと思った」と話していた。

会議の出席者からは「交通弱者に配慮してもらえると、の境をなくし、住民サービスの向上や地域連携を進めた」と説明した。

諏訪市 南部地区の小中一貫校整備

基本計画策定へWS予定

今夏から必要な機能など協議

諏訪市内南部地区の3小中プ(WS、参加型講習会)を学校の再編統合を協議する「ゆめスクールプラン南部地区推進委員会」は18日夜、市役所で会合を開いた。市教育委員会は新たに整備する小中一貫校について2032年度に開校を目指すとして、基本計画の策定に向け、推進委の委員も加わったワークショップ

一貫校は、四賀・中洲両小学校と諏訪南中学校を再編統合し、児童・生徒が同じ校舎を使う「施設一体型」として取得を進めてきた西側の土地、その間の市道に整備する。市教委は会合で、26年度に基本計画を作り、27・31年度で設計・建設工事を行い、32年度開校を目指すスケジュールを提示。WSは今年7月ごろから開き、学校のレイアウトや部屋の配置、必要な機能や外観などを話し合い、意見を踏まえた基本計画を作りたいとした。

小中学校のPTAや校長、保育園保護者ら委員約20人が出席。三輪晋一教育長は市の重点施策だとし「理解いただきたい」とあいさつした。

富士見町役場

窓口の受付時間 試行的に短縮へ

5〜9月 10月以降の本格運用検討

富士見町は5月から、町役場窓口の受付時間を試行的に短縮する。職員の業務効率化や行政サービスの向上などが狙い。試行期間は5月11日から9月30日で、現行の午前8時半〜午後5時15分を午前9時〜午後4時半とする。

19日に町役場で開いた町議会全員協議会で明らかにした。相談対応の質の向上に充てる時間

の確保や、時間外勤務の抑制による人件費削減などを見込むという。町総務課によると、昨年11、12月に住民福祉課窓口で対応件数を調べたところ、午前9時までに来庁した割合は4・2%、電話が来た割合は7・6%で、午後4時半以降の来庁は6・5%、電話は10・5%だった。

受付時間短縮の対象は証明書



南部地区小中一貫校の開校スケジュールなどが示された推進委の会合